

第91回山口西田読書會

1 前回の議論

①田中さんのプロトコルが発表された。

- 岡部さんの哲学的問い「西田哲学は人生の悩みはどう対応しているか」について
 - ・絶望からの離脱は、他者の証明によるものではない。とにかく**自得する**しかない。これが西田先生の立場ではないだろうか。
- (1-3-4)の予期的表象が意志的運動に先立つという主張への反論について
 - ・本文「**両現象(意識と外界)が平行する**というまででなければならぬ」の内容について確認をした。

→この内容はスピノザの思想を参考にすると理解しやすい。スピノザは**唯一実体を神**とし、物も心も、神から導かれる**思惟と延長**という2つの側面でしかないと主張した。つまり、意識も外界も根本は同一であり、分化したものであるといえる。

- 田中さんの哲学的問い「西田哲学は生きがいをどう捉えているのか？」

本文「**我々が現実と離れた高き目的を実行しようと思う場合には種々の手段を考え、これによりて一步一步と進まねばならぬ、しかしてかく手段を考えるのはすなわち客観に調和を求めるのである。**」

→西田先生の考えは、**周りの環境に合わせて生きることを推奨しているように思える**。環境を変えていこうとする生き方についてはどう考えていたのだろうか？

- ・本文の「客観」という語を「環境」と同じ意味として捉えてよいのだろうか？
- 環境は「自らを中心とする周辺世界」と考えることができるが、「客観」の捉え方については意見が分かれた。
- ・人間がいくら環境を変化していくことを続けたとしても、環境の中に住まわるという点においては、どうしても抜け出すことができない。客観に調和するとは、このことを示しているのではないだろうか。
 - ・**環境を支えるものは神である**という意見も出された。**神＝客観(自然)**であり、**客観に調和することは、神に従うことと同義である**。

②本文を読み進めた。

- (1-3-5)について
 - ・意志＝欲求となっているが、どういうことなのか？
- 意志の不統一な状態**のことを欲求という。(1-3-6より)
- ・自由意志論と自由必然論の内容について確認をした。
- 自由意思論は、「**観念の結合の外にこれを支配する一の力がある**」ことを根拠としている。(3-3-2より)
- 自由必然論は、「**意識現象と自然現象とは同一であって、同一の法則によって支配せら**

れるべきものであるという仮定が根拠となっている」(3-3-4より)

・自由意志論への論駁

→「なんらの理由なくして全く偶然にことを決する如きことがあったならば、我々はこの時意志の自由を感じないで、反ってこれを偶然の出来事として外より働いたものとする」(3-3-3より)

・意志必然論への論駁

→意志必然論の根拠となる仮定は、「未定の議論」であり、「はなはだ薄弱」で、「精神上の意味なるものは(中略)超然たるもの」と考えることができる。

・西田哲学における「自由」とは

→意志の自由＝必然的自由(＝真の自由)であることが確認された。さらに、**真の自由**

は、**神の自由**であることも確認された。**選択する**という行為は、**意志が不完全ゆえに**

生じるのであり、**真の自由**においては、**必然**である。

→現実の我々は、選択を行いながら生きているのだから、西田先生の「真の自由」とギャップが生じている。この点はどう考えればよいのだろうか？

・西田先生の考える「客観」とは？

→「客観」とは環境のような相対的なものというより、**絶対的なもの、すなわち、変化することのない根源的なものではない**だろうか。人間は根源に向かって進んでいくのではないだろうか。

2 哲学的問い

西田先生は、一般的に考えられている意志(欲求)は自由でないと考えている。なぜ西田先生は一般的意志では、強迫を感じずと表現したのか。普通、欲求が生じるとき、私たちは何か自己なるものから欲求が生じると考えているが、西田先生の立場はそうではない。「我が欲求を生ずるというよりはむしろ現実の動機が我である」、すなわち、一般的意志においては、欲求は常にその対象から触発されるような形で動いており、欲求が生じるときに、自己が存在するように感じるということであろう。主客が分かれた世界では、欲求の対象から、自己が定立される形から抜け出すことができない。それゆえに、西田先生は「強迫」と表現されたのだろう。一方、真の自由は、最深の動機に基づくものであり、読書会ではこれがどこから生じているのかという問いが出された。おそらく、**統一的或者から生じていると考えられる**。なぜなら、先程述べたように、一般的意志の世界では、主客が分立しているために強迫を感じるしかない。つまり、最深の動機においてはこのような仕方、意志が定立されない。それは、**純粹経験の世界**ということになりはしないだろうか。主客未分ゆえに対象から欲望を喚起されるという形で欲望が生じない。真の自由は**純粹経験**の形で実現されると思う。しかし、**純粹経験の状態**といっても、**トランス状態**

のように没頭しているような盲目的な捉われの状態がある。このときは、真の自由だといえるのだろうか？